

### 4 将来の都市像の検討シート（まとめ）

#### ①市民視点（全体）（市民意向調査）

**住みやすさ** 全体の72.7%が住みやすさを実感  
 ・65～69歳、70～74歳の層で「住みやすい」の回答が少ない  
 ・比較的最近、区画整理が完了した地区や駅に近い地区で評価が高い

**定住志向** 全体の82.0%が「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」と回答  
 ・年齢が高くなるほど定住志向は高まる傾向  
 ・尾張東部地区の5市のうち、日進市に次いで高い定住志向

**良い点 悪い点** 【良い点】「緑が多く自然に恵まれている」「商業施設が整っており、買い物に便利」  
 【悪い点】「レジャー施設が充実していない」「働きがいのある職場が少ない」  
 ※「交通の便」は、渋川・三郷校区で評価が高く、瑞鳳・本地原校区は低い

#### ②市民視点（個別）（市民意向調査、校区まちづくり懇談会、中学生アンケート）

**施策の満足・重要度** 満足度【高】重要度【高】  
 地域医療体制、消防救急体制、健康づくり、上水道の安定供給  
 満足度【低】重要度【高】  
 防災・防犯対策、高齢者福祉、公共交通網整備、生活道路整備  
 ※平成12年調査と比べ、全体の傾向として満足度・重要度ともに高くなった

**校区まちづくり懇談会** 新旧住民や多世代間での交流、挨拶などの地域でのコミュニケーションの促進  
 防犯灯の設置や災害への備えなどの防災・防犯対策  
 下水道の整備や河川管理の適正化  
 買い物弱者対策や地域公共交通網の整備などの高齢者の生活基盤確保  
 めざすまちのイメージ【大人の回答と差のある項目】

**中学生アンケート** 中学生：地域のお祭りやイベントが盛ん、きれいな街並み、災害に強い  
 （大人：生活に直結する福祉、健康、交通）  
 キッチフレーズ：「みんな」、「自然」、「元気」といったキーワード

#### ③人口

**人口動態分析**

- ・出生数が死亡数を上回るものの、その差は減少（H19:312人⇒H23:160人）
- ・H19・20年をピークに転入者数が大きく減少し、H22・23年ともに転出者数が転入者数を上回る（近隣の市区も、同様に転入者数が大きく減少）
- ・近隣市区間での移動が多い
- ・転入転出者の多い層は、25～39歳の層

**高齢化**

- ・今後、本市において高齢化は急速に進む
- ・65歳以上 H17:16.4%⇒H32:27.1%⇒H47:32.2%（3人に1人）
- ・75歳以上 H17:6.5%⇒H32:14.2%⇒H47:18.6%（H17比約3倍）

#### ④政策別の特色・課題（SWOT分析の結果を抜粋）

**抽出された政策別の特色・課題**

政策1:健康づくりの取り組みの継続 ・子育て世代に選ばれる子育て支援策

政策2:地域で子どもを育てていく取り組み ・伝統文化の保存・継承活動

政策3:街並みや公園等の住宅都市の魅力発信 ・あさび一号の利用促進

政策4:災害に強いまちづくり ・自助、共助の取り組み

政策5:市民と行政による環境に配慮した取り組み ・豊かな緑を保全する取り組み

政策6:店舗の廃業撤退による買い物弱者の発生 ・消費者保護の取り組み

政策7:自治会加入率の減少 ・地域活動の担い手養成

政策8:ICTやメディアを活用した市のPR ・老朽化した公共施設の再編

※①～④の検討結果より重要事項を抽出

#### ⑤将来の都市像（案）

##### 重要事項の抽出

- ・**つながりのあるまち**  
⇒地域コミュニティや人とのつながり・支え合いの重要性の再認識・再構築
- ・**笑顔や元気があふれるまち**  
⇒健康づくりの取り組み継続（健康ブランド確立）  
⇒超高齢社会への対応  
⇒「健康・元気」は世代を超えた望み
- ・**豊かな緑を守り・生かすまち**  
⇒魅力1位「緑が多く自然に恵まれている」  
⇒豊かな緑を保全し、次の世代へ継承
- ・**住みたくなるまち**  
⇒定住者の増加（暮らしやすさ・住みよさ）  
⇒都市間競争に負けないまちづくり（発信力）

##### 将来の都市像（案）

**みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいまち 尾張旭**

※WGの検討結果をもとに策定会議で最終決定しました。

※上記の推計は、「国立社会保障・人口問題研究所」（平成20年12月推計）による